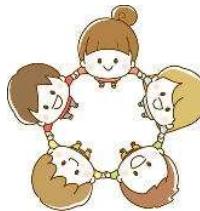


特別支援教育コーディネーターだより

つなぐ



令和5年7月18日

第5号

五島市立緑丘小学校

特別支援教育コーディネーター

川上恭子

1学期が終了します

もうすぐ、1学期の終業式を迎えます。7月の暑さにも負けず、登校してすぐに運動場に向かって走っていく子どもたちでした。そして、運動場から戻って来たときには、シャワーを浴びたかのように髪の毛まで濡れていたり、汗が頬を伝っていたりする子どもたちがほとんどでした。教室に戻ってお茶を飲むように声を掛けると、「水筒を忘れて来た。」と答える子どもが数名いました。汗をかくこの時期は、熱中症予防のために水筒を忘れずに持ってきてほしいと思います。



研修会での講話から・・・

先日、児童発達支援等で本校の子どもたちが利用している「ひまわりルーム」で研修会がありました。講師は、言語聴覚士の堀裕子先生です。要求表現や気持ちを伝える言葉を知らなかったり、うまく伝えられなかつたりする事例です。ある日、A君が鉛筆を忘れた場面での会話です。

先生：「A君、忘れたときは、どうすれば良いの？」

A君：「友達に借りる。」

先生：「そうだね。B君に1本貸してって言ったら？」

A君：「どうせ、貸してくれないよ。」



A君は、鉛筆を忘れたときの適切な行動の仕方を理解していますが、実際に「貸して。」とは言えませんでした。どうすれば、A君は友達に「鉛筆を貸して。」と言えるのでしょうか・・・。

先生：「B君に鉛筆を貸してって言ってみたら？先生も聞いているから。」

A君：「B君、鉛筆を1本貸してくれる？」

B君：「いいよ。」



先生：「A君、自分で借りることができたね。」「B君、鉛筆を貸してくれてありがとう。」

A君は、これまでに「貸して。」と言って断られた経験があったために諦めていたのかも知れませんし、自分から人に何かを頼むのが苦手なタイプなのかも知れません。しかし、このような成功体験を積み重ねることで、困った時は、誰かに援助依頼をしようという気持ちになります。援助依頼は、生活するうえで大切なスキルですので、御家庭でも「してみて。」「言ってみて。」と伝えるだけでなく、実際に行動する場面を見守りながら褒めてあげてほしいと思います。



長い夏休みの期間は、いろいろな人と関わる機会が多くなると思います。何でも大人が先回りして与えるのではなく、子どもたちが自分で考えたり、行動したりしながら、やってみて良かったという成功体験を重ねる休みにしてほしいと思います。

